

## 平塚市教育委員会令和5年7月定例会会議録

### 開会の日時

令和5年7月28日（金）14時30分

### 会議の場所

平塚青少年会館2階集会室

### 会議に出席した者

教育長 吉野 雅裕      委員 梶原 光令      委員 守屋 宣成      委員 菅野 和恵  
委員 大野 かおり

### 説明のため出席した者

#### ◎教育総務部

教育総務部長	長谷川 孝	教育総務課企画担当長	松本 信哉
教育施設課長	金子 稔	学校給食課長	吉澤 達夫

#### ◎学校教育部

学校教育部長	工藤 直人	学務課長	市川 豊
教職員課長	宮坂 正	教育指導課長	若杉 真由美
教育指導課学校安全担当課長	斗澤 正幸	教育指導課指導主事	高松 正実
教育指導課指導主事	稲穂 夏木	教育研究所長	伊沢 秀樹
子ども教育相談センター所長	伊藤 裕香		

#### ◎社会教育部

社会教育部長	平井 悟	社会教育課長	田中 恵美子
スポーツ課長	佐野 公宣	中央図書館長	藤田 忠義
中央図書館管理担当長	熱田 敏男	博物館長	浜野 達也
美術館長	戸塚 清		

### 会議の概要

#### 【開会宣言】

#### ○吉野教育長

これから教育委員会令和5年7月定例会を開会する。

本日は、傍聴を希望される方が10人を超えているが、平塚市教育委員会傍聴規則第2条第3項の規定に基づき10人を超える傍聴を認める。

## 【前回会議録の承認】

### ○吉野教育長

始めに、令和5年6月定例会の会議録の承認をお願いする。

(訂正等の意見なし)

### ○吉野教育長

訂正等の意見がないので、令和5年6月定例会の会議録は承認されたものとする。

## 1 令和6年度平塚市立小学校使用教科用図書の採択について

### ○吉野教育長

令和6年度に平塚市立小学校の児童が使用する教科用図書について採択するものである。詳細は教育指導課長が説明する。

### ○教育指導課長

令和6年度平塚市立小学校において使用する教科用図書について、協議の上、採択をしていただく。

令和6年度平塚市立小学校において使用する教科用図書については、平塚市教科用図書採択検討委員会設置要綱に基づき、採択検討委員会を設置し、採択に関する必要な事項を教育委員会に報告することを目的に調査・研究及び協議をしてきた。

まず、第1回平塚市教科用図書採択検討委員会では、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律、教科用図書採択の流れ、令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針などを確認した。

第1回平塚市教科用図書採択検討委員会の後、設置要綱に基づき、今回採択する小学校教科用図書11教科13種目について、調査員会を設置した。調査員会については、平塚市、秦野市、伊勢原市の調査員及び大磯町と二宮町の調査員合計4人で調査活動を行った。調査の観点については、神奈川県教科用図書選定審議会の観点を参考にした。

第2回平塚市教科用図書採択検討委員会では、平塚市の調査員が、調査報告を行い、その後、検討委員による質疑と協議を行った。その中で、本市の児童の実態に合った教科書の在り方や、教師の指導に即した教科書の在り方について御質問や御意見・御要望をいただくことができた。また、保護者代表の方にも出席、協議への参加をしていただいた。

本日の教育委員会においては、令和6年度小学校において使用する教科用図書を種目ごとに協議の上、採択していただくようお願いする。

### ○吉野教育長

ただいまの説明について、質問はあるか。

### ○梶原委員

確認事項として、教育指導課長からこれまでの経過の概略を紹介していただいたが、公

正な採択の確保という点で、今日まで対応がなされてきたかどうか、お伺いしたいと思う。また、採択検討委員会において公正に審議が進められたと受け止めているが、事務局としては、どのように受け止めているか、確認したいと思う。

### ○教育指導課長

文部科学省や神奈川県教育委員会からの指導もあり、各学校に対して、公正確保の通知を出し、学校において教科書発行者による献本や自宅訪問等の不正行為がないように、校長会において、十分注意するよう依頼してきた。その結果、学校等における不公正な動きは見られなかったと認識している。

検討委員会においては、検討委員の皆様に、役割や立場を十分に御理解いただき、誓約書に署名をいただいている。検討委員会当日は、静ひつな環境確保ができたものと考えている。また、検討委員会の中では、調査員の調査研究報告がなされた。報告は公正な内容であり、これに基づき協議を行うことができ、会議は公正に進められたと認識している。

### ○吉野教育長

ほかに質問はあるか。

(質問等の意見なし)

### ○吉野教育長

特に質問がないようなので、令和6年度平塚市立小学校において使用する教科用図書について、各種目の採択に移る。

### 【国語】

### ○吉野教育長

国語科から始める。各委員の意見を伺う。

### ○守屋委員

子どもたちは、家庭学習で国語科の教科書を音読することがあると思う。私も保護者の一人として、子どもの音読を聞いているので、どういった読み物教材が掲載されているか注目してみたが、各者昔から親しまれている物語や昔話などが掲載されていた。保護者にとっても、子どもの頃学習した教材がいくつか載っているのので、音読を通して家庭での会話が弾むきっかけになるのではないかと感じた。

### ○梶原委員

子どもたちには、読書に親しんでほしいと思っている。読書を通して、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな想像力を育ててほしいと考える。そういった視点で教科書を見ると、各者とも、子どもたちが読書を始めるきっかけになるよう、本の表紙の写真とともに、紹介文やあらすじが載っていて、読んでみたいという工夫がされている。中でも、光村図書出版では、「本は友達」のページで1冊の本が取り上げられ、その本の全

文又は一部分が掲載されており、読書への関心を高める工夫がされていると感じた。

## ○吉野教育長

平塚市は、図書館が4つあり、また各校に市費でサンサン・スタッフを配置し、読書には特に力を入れている。その点から考えると、読書に関する内容が充実していることも重要ではないかと考える。

東京書籍にも、各学年に「本は友達」が設定されている。米村でんじろうさん、あさのあつこさんなど著名人による読書体験文が2年生から6年生までのところで掲載されており、本を手に取りたくなるような工夫がされていると感じた。

読書に関する内容の充実度を考えると、私は東京書籍がよいのではないかと思った。

## ○守屋委員

幼児教育との円滑な接続という点から考えると、各者鉛筆の持ち方について、写真やイラストで掲載しているが、東京書籍と光村図書出版では、鉛筆の持ち方がリズムカルな短い文で説明されている。子どもたちがその文を唱えながら、無理なく正しく鉛筆が持てるように導く工夫がされていると感じた。さらに、東京書籍は、右利きだけでなく左利きについても写真を掲載している点がよいと思う。

一方、光村図書出版では、6年生の話し合い活動のところで、「考えを整理するための観点」や「話し合うときに意識すること」など、活動を進めていく上で押さえてたいポイントが丁寧に示されている。その中で、私が特によいと思ったのは、「考えを広げる話し合いのとき」「考えをまとめる話し合いのとき」のポイントがそれぞれ明確に示されているところである。子どもたちにとっても、先生にとっても話し合いの目的に応じたポイントを意識して活動を進めていくことができるのではないかと思った。

東京書籍と光村図書出版それぞれのよさがあるので、私は悩んでいる。

## ○大野委員

私も光村図書出版と東京書籍で迷っている。

先ほど守屋委員から幼児教育との円滑な接続という視点での話があったが、光村図書出版で私がよいと思ったのは、入門期で生活科との関連を意識した配列になっている点である。入学したばかりの子どもたちには、生活科を中心に、他教科と関連させながら弾力的に授業を進めていくので、生活科との関連を意識した配列は、実態に合っていると思う。また、1年生下巻の教科書からは、学習を通して身に付けさせたい力が単元名に明確に示されており、子どもたちにとっても、先生にとっても、どのような学習に取り組み、どのようなことができるようになればよいかを意識しながら授業を進めていくことができると思う。

一方東京書籍は、巻末に新しく学習した漢字が、筆順入りで掲載されている点や「国語のノートの作り方」が、各学年の発達段階に応じて示されている点がよいと思う。3年生以上は、デジタルノートの使い方にも触れられていた。

光村図書出版と東京書籍、どちらもよい面があるので、私も決めかねている。

## ○菅野委員

私は光村図書出版がよいと思った。

ノートの作り方の話が出たが、光村図書出版は、「国語のノートの作り方」だけでなく、2年生以上の巻末に「図を使って考えよう」が掲載されている。ロジカルシンキングについて、このようなツールを使って考え方を学べることは魅力的だと思う。

## ○大野委員

確かに光村図書出版の巻末にある「図を使って考えよう」は、内容が各学年の発達段階に合っていてよいと感じた。理科や社会科など、他教科でもこの一覧を使って、考えや情報を整理することに活用できると思う。

## ○梶原委員

私はやはり光村図書出版がよいと思う。

東京書籍も教育出版も、随所に発達段階や学習内容に応じた本の紹介がされているが、光村図書出版は、巻末の本の紹介ページ「本の世界を広げよう」で、読み終わった本に自分で印をつけられる欄がある。チェック欄という細かい点ではあるが、自分が読んだ本が一目で分かるようになるので、子どもたちの主体的な読書活動を支える工夫がされていると感じる。

## ○吉野教育長

皆さんの話を聞いていると、光村図書出版のよさを挙げている方が多いようである。

私は、東京書籍がよいと考えていたが、大野委員の「学習を通して身に付けさせたい力が単元名に明確に示されている」という点は、大切だと思った。東京書籍は活動内容が単元名に示されているものが多いので、先生によっては活動そのものが授業の目的になってしまうことも考えられる。私も皆さんの意見を伺い、光村図書出版がよいと思った。

それでは、国語については光村図書出版でよいか。

## 【結果】

**全員異議なく「光村図書出版」が採択された。**

## 【書写】

### ○吉野教育長

続いて、書写に移る。各委員の意見を伺う。

### ○菅野委員

3年生からの毛筆の始まりの指導では、東京書籍が見開き2ページに、用具の準備と片付けの仕方を掲載している。筆のほぐし方や硯に入れる墨液の量まで書いてあるので、先生方は、ここを見ると指導しやすいと思った。

光村図書出版は「毛筆スタートブック」があって、筆のほぐし方や片付けまで丁寧に説

明している。

## ○大野委員

東京書籍は書き始めを意識させているところがよいと思った。「とん」と入って「びた」とか、「とん」と入って「びょん」とか「すうっ」というリズムカルな表記で、書き始めと書き終わりを意識させているのがよいと思った。また、1マスを四つに色分けしてあるので、どこのマスから書き始め、どこのマスで終わるかということが、低学年の子どもたちにも分かりやすいと思う。

## ○守屋委員

私は、筆をよく使うので、やはりとめ、はね、はらいを意識して文字を書くことが大切だと感じている。三者を1年生の教科書で比べてみると、教育出版ははねの扱いが最初の方にない。とめ、はね、はらいの基本を1年生のうちから硬筆できちんと教えていくことが大事であると考え、東京書籍は、見開き1ページにとめ、はね、はらいがまとまっている。

光村図書出版はとめ、はね、はらいをそれぞれ1ページで扱っている。子どもたちにとって分かりやすいのは、東京書籍か光村図書出版のどちらか決めかねている。

## ○大野委員

毛筆を硬筆や日常生活にいかすことが大切かと思う。各者手紙やポスターなどのお手本を示して読みやすい例を挙げているが、東京書籍は文字が偏って見にくい例、点画が違っていると読みにくい例を載せていて、「どこをどのように変えるとよいのだろうか」という問題解決学習の流れがしっかりしていると感じる。

## ○守屋委員

日常生活とのつながりでいうと、各者の手紙やはがきの扱いについて、それぞれ特徴があると思った。教育出版は3年から6年生で、手紙やはがきを扱っている。特に、5年生の教科書では、年賀状や絵はがきの書き方について、相手や場面に合わせた書き方が工夫できるよう数多くの例を示し、扱っている。メールやSNSで簡単に連絡が取れるようになり、手紙を書く機会が減っているからこそ、書いて伝え合う活動が丁寧に扱われているのはよいことだと思った。手紙やはがきを書く活動は東京書籍や光村図書出版でも扱っているが、特に光村図書出版は3、4、5年生で「手紙の書き方」を扱い、更に6年生の「書写ブック」でも復習できるようになっていることが特徴的である。

## ○吉野教育長

皆さんどこの発行者にするか、悩まれているようである。

では、別の視点で意見をいただきたいと思う。先程、国語科は光村図書出版を採択したが、書写も国語科の中で扱うので、国語科の教科書との連動については、どのように考えているか。

## ○梶原委員

国語科と書写が必ずしも同じ発行者でなければならないとは思わないが、国語科で学習した物語を書写で同じ時期に扱った方が子どもたちの学びは深まるのではないか。発行者が違えば、全く国語科で扱っていない物語が書写で出てくることもあるのではないかと思う。

## ○大野委員

例えば国語科の教科書に掲載されている「スイミー」は、東京書籍は1年生で、光村図書出版は2年生でそれぞれ扱っていて、書写もそれと連動するようになっている。

さらに、光村図書出版の6年の国語科で「やまなし」を扱うが、書写にも出てくる。題材が同じものを扱っている方が先生方も教えやすいと思う。

漢字は国語科の題材の中で学習していくと思うが、発行者が違くと国語科で学習していない漢字が出てくることもある。そういった漢字の学習順を考えると、発行者が揃っていた方がよさそうだった。

## ○吉野教育長

皆様の話を総合すると書写は東京書籍か光村図書出版になるかと思う。甲乙つけがたいところではあるが、教科書と扱う題材が揃っていた方が先生方は指導しやすいということは確認できたので、書写は光村図書出版を採択したいと思うがどうか。

### 【結果】

**全員異議なく「光村図書出版」が採択された。**

### 【社会】

## ○吉野教育長

続いて、社会科に移る。各委員の意見を伺う。

## ○梶原委員

私は、東京書籍がよいのではないかと思う。各者とも問題解決的な学習のまとめ部分では多様な学習活動が例として紹介されているが、中でも東京書籍はレパトリーが多彩で、子どもたちにとって楽しい学習のまとめになるのではないかと思う。3年生の教科書では、市についての学習を終えたあとの宣伝ポスターづくり、安全を守る人々の学習を終えた後の標語づくりなど、たくさんのまとめの学習活動例が紹介されており、先生方にとっても指導に役立つのではないかと思う。

## ○守屋委員

私は、教育出版がよいと思う。3年生の生産と販売を学習する内容で、教育出版は「店ではたらく人と仕事」から、東京書籍は「農家の仕事」から、日本文教出版は「工場ではたらく人びとの仕事」から学習がスタートする。平塚市内には農家や工場もたくさんある

が、お店ではたらく人が子どもたちにとっては身近で、学習の始めの内容として取り組みやすいのではないかと思う。

### ○吉野教育長

小学校4年生では、健康や生活環境を支える仕事を学習する。教育出版と日本文教出版では廃棄物を処理する事業のあとに飲料水を供給する事業が掲載されている。東京書籍は、飲料水を供給する事業のあとに廃棄物を処理する事業が掲載されている。

平塚市では、副読本「わたしたちの平塚」を3、4年生で活用しているが、その中でも、ごみの学習のあとに水の学習が扱われている。子どもたちにとっても、教科書と副読本が同じ順番の方が関連付けて学習しやすいと思う。私も教育出版がよいと思う。

### ○大野委員

私も教育出版がよいと思った。教育出版の「社会科の学習の進め方」を見ると、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という学習場面のつながりを意識した構成になっており、分かりやすく示されているという印象を受けた。こうした学習を繰り返し行うことで、子どもたちの問題解決的な学習の進め方が身に付くと思う。

### ○菅野委員

私は、教育出版で学習内容を紹介するキャラクターに、車椅子を利用している子どもや、外国につながる子どもも含まれていることがよいと思った。イラストは、子どもたちの心に自然と残りやすいと思う。多様性を認め、みんなで一緒に学び、一緒に生きるという、共生社会実現に向けた意識を培っていく上で、効果があると思う。

### ○守屋委員

新たな世の中の動きとして、SDGsの取組が挙げられると思う。日本文教出版では、学習した内容とSDGsを関連付け、見開きで取り上げて発展的に学習できるようにして工夫を感じた。

### ○梶原委員

皆さんのお話を聞いていて、教育出版もよいと思った。先ほど、教育長が副読本「わたしたちの平塚」との関連性について話をされたが、教育出版のよさは、平塚市の子どもたちが遠足や校外学習で訪れることの多い寒川浄水場や寄木細工で有名な箱根町、相模湖や相模ダムなど、馴染みのある神奈川県の写真が多く掲載されていることである。子どもたちにとって大変取り組みやすいのではないか。

### ○大野委員

6年生の日中戦争や第二次世界大戦についての単元では、各者とも戦争が激しくなる中で、暮らしが次第に戦争一色になっていく様子を子どもたちに考えさせるために、当時の資料や写真がたくさん掲載されている。中でも教育出版は、どんぐりと戦争というトピックを掲載したり、戦争が子どもたちの暮らしにどのような影響を与えたのかについて問い



を設定したりするなど、子どもたちが戦争をより切実に考えることができるよう工夫がされていると感じた。巻末に平和の誓いが掲載されているのもよいと思う。以上のことから教育出版がよいと思った。

## ○吉野教育長

大野委員が言われた各者の戦時中の暮らしのところを見比べてみると、教育出版だけがカラー写真であり、東京書籍と日本文教出版は、白黒写真となっていた。それぞれのよさがあると思うが、カラー写真の方が、子どもたちには印象に残るのではないかと思った。それでは、社会科は、教育出版ということによいか。

### 【結果】

**全員異議なく「教育出版」が採択された。**

### 【地図】

## ○吉野教育長

続いて、地図に移る。各委員の意見を伺う。

## ○梶原委員

帝国書院、東京書籍ともに日本の自然災害と防災のページがある。

東京書籍では、宮城県南三陸町のハザードマップとその読み取り方が掲載されている。

帝国書院では「防災マップづくり」というコーナーが設定されており、児童が防災マップづくりを通して防災への理解を深められる印象を受けた。日本では、今も被災して大変な思いをされている方が全国にいらっしゃる。自然災害と防災というのは、とても大事なことだと思うので、防災教育の視点でも学習内容が充実している帝国書院がよいと思う。

## ○大野委員

子どもたちが地図帳を手にとった時、まず探すのは自分たちが暮らしている平塚だと思う。東京書籍では、サッカーボールとタイヤ、帝国書院では、車とタイヤが描き込まれていて、子どもたちにとって、両者とも平塚の特徴が分かるようになっている。また、全体の色使いを見ると、帝国書院の方が陸の高低差がより感じられ、見やすいと思う。よって帝国書院がよいと思う。

## ○菅野委員

帝国書院の「地図マスターへの道」は、発達段階に応じて、地図や資料から情報を探したり、資料をもとに考えたりする活動ができると思った。東京書籍の「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」でも、地図や資料を使って考える活動が設定されているが、東京書籍は、レベルが星の数で示されているのに対し、帝国書院は学年で示されている。授業で活用する際には、学年で示されている方が分かりやすいと感じる。

## ○守屋委員

東京書籍の主題図のページは帝国書院の主題図にはないテーマもあり、日本と世界の山や川の比較が分かりやすく充実している。ただ、私も色使いを含めて帝国書院が見やすいと思う。地図帳は広げて見るものなので、触った時や広げた際、紙質が柔らかい帝国書院の地図が使いやすい印象を持った。

## ○吉野教育長

私も帝国書院の地図の方が見やすいと感じている。3年生の地図の導入ページを見ると、帝国書院にも東京書籍にも、斜め上から見たまちや学校の周りの様子がある。東京書籍は、描かれているイラストに建物や人、車などの情報が多く感じた。真上から見たまちの様子も斜めからと上からの見え方がはっきりしない印象を持った。対して、帝国書院の方がすっきりして見やすい感じがする。このようなシンプルさが地図帳を使い始める3年生の発達段階にとってよいのではないかと思った。

## ○菅野委員

3年生から使うことを考えると、帝国書院の「地図の世界へようこそ」のインデックスに「3年生の学習」と記されていて分かりやすいと思う。また、「地図マスターへの道」でも、該当学年が示されており、発達段階に即していることが分かる。

## ○吉野教育長

それでは、地図は、帝国書院としてよいか。

### 【結果】

**全員異議なく「帝国書院」が採択された。**

### 【算数】

## ○吉野教育長

続いて、算数科に移る。各委員の意見を伺う。

## ○守屋委員

授業の流れがイメージできるよう各者工夫されているが、算数は、得意不得意が分かれやすく、苦手意識を持っている子どもたちに対しても主体的に学習に取り組めるような工夫が必要だと感じる。その点では、教育出版と啓林館は苦手な子にとっても、学習に入りやすいと感じた。教育出版の巻頭には「みんなで算数をはじめよう」という、学習の進め方が示されている。大きな写真とキーワードでポイントがまとまっており、分かりやすいと感じた。啓林館は問題の横に「よくある間違い」を取り上げた二次元コードが設定されている。間違いへの注意を促していて、子どもたちにとって学習の参考になると思った。

## ○梶原委員

教育出版には、算数を使って日常の問題を解決する「学んだことを使おう」や「算数を使って考えよう」というページがある。学んだことを日常生活にいかす場面があると、学ぶ意欲にもつながると思うので、学んだことを活用する場面が充実しているところがよいと思った。

## ○菅野委員

算数の学習をスムーズに行えるように、1年生の教科書にも各者工夫があると思った。東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版の1年生の教科書には分冊の教科書がある。1年生はものの個数を比べる学習において、実際にものを並べてみることが多いと思うが、薄く反りが少ないので、教科書の絵の上に実際にものを置いて比較しやすいのではないかと思った。また、鉛筆でも書き込みやすい紙質なので、初めて算数を学習する1年生には使いやすいと思った。特に啓林館は、数を数える学習で子どもたちにとってより身近なものである鉛筆や消しゴムなどになっているので分かりやすいと思った。また、学校図書は6年生に分冊の教科書がある。

## ○大野委員

算数は問題を解くことが授業の骨格になると思うので、そういう意味では問題を解いてみたくなるような工夫も大切だと思う。

その点で、私は教育出版の「算数ワールド」はおもしろいと思う。例えば、3年生では、「2分の1に分けよう」というページがあり、わり算を学習した後に、これから習う分数の学習につなげるような場面があったり、4年生では「こわれた電卓」というページで、計算のきまりを使わざるを得ない状況を作り出したりしていた。算数が苦手な子も思わずチャレンジしてみたくなる問題が多く、学習したことをいかす場面を演出していると感じた。子どもたちは、学んだことがいきる場面があることを知り、それを通して算数を勉強する大切さを感じることができると思う。

ただ、見やすさという点では気になるころがあった。1年生の最初の単元、数を数える場面に楽器が使われている。1年生にとって楽器の名前は馴染みがあまりないので、スタートの教科書としては、菅野委員の意見にもあったが、啓林館のような1年生にとっても親しみのあるものが題材になっているとよいと思った。

## ○吉野教育長

ここまで、教育出版と啓林館を推す声が多いようである。

啓林館では2年生から巻頭に「算数の学習の進め方」のページが設けられている。そこでは「どんな問題かな」「自分で考えよう」「みんなで話し合おう」「たしかめよう、ふりかえろう」という学習活動が示されている。算数の学習においては、こうした考えを働かせながら、知識及び技能を習得したり、それらを活用して探究したりすることにより、より広い領域や複雑な事象について思考・判断・表現できる力の育成を目指すことが求められる。こうした視点で見ると教育出版は根拠を基に筋道を立てて考え、統合的、発展的に考える学習の流れ、問題解決のプロセスが大切にされていると感じる。また、分からない箇

所がある時に関連する内容を振り返ることができる工夫が各者されているが、特に教育出版の「学びのマップ」は、学年を越えて既習事項とのつながりがすぐに分かるよう、見やすくまとめられていてよいと思う。

### ○菅野委員

教育長がいうように、問題解決のプロセスにおいて、教育出版では、数学的な活動を「はてな?」「なるほど!」「だったら!？」のような、問いの連続で子どもたちが課題を追究していく構成になっているところがよいと思うので、私も教育出版がよいと思う。

### ○吉野教育長

それでは、算数科は、教育出版としてよいか。

### 【結果】

**全員異議なく「教育出版」が採択された。**

### 【理科】

### ○吉野教育長

続いて、理科に移る。各委員の意見を伺う。

### ○菅野委員

理科には理科ならではの思考の枠組みがあって、比較したり、関係付けたり、条件付けたりとか、互いの予想や仮説を尊重して問題解決するといった学習の充実が必要だと思う。問題解決を通して学習していくことを考えると、学習の流れが分かりやすいことが大切だと考える。各者、このような学習の流れを意識して構成されているが、矢印を使って流れが示されているのは、東京書籍、学校図書、教育出版の3者である。3年生から使用することを考えると子どもたちにも分かりやすいと思った。

### ○大野委員

理科では観察、実験を行うわけだが、私も教員の時は、観察、実験が安全に行えるようにとても気を遣った。子どもたちも先生も、安全に学習できるということは重要だと考える。その点については啓林館がよいと思った。例えば、6年生では水溶液の性質を調べる実験を行うが、先生からするとピペットの使い方や薬品を扱う留意点について、できるだけ学習内容が記載されているページにまとまってほしいのではないかと。別途、巻末などにまとめられていて、実験をしながら教科書もめくって、使い方・留意点も確認してということ、大変な作業である。その点において啓林館は、水溶液の性質を調べる実験だけでなく、私も教えていて「危ない」と感じたことがあった生き物の観察に向けた服装のことや、水蒸気を発生させる実験において、観察の前や実験中に安全面を確認できるよう、学習内容のページに詳しく書き込まれているので、子どもたちも先生も、観察・実験に集中できるのではないかと考えた。

## ○守屋委員

私は、教育出版の裏表紙に「理科の安全の手引き」が示されていて特徴があると感じていたが、確かに子どもたちの安全を思うと、実験中はページをめくる作業をできるだけ少なくして実験に集中できるとよい。また、裏表紙についてだが、各者それぞれ工夫がある中で、学校図書は、学習内容とSDGsとのつながりが分かるように、一覧で掲載されている。環境問題など、子どもたちが未来の地球を考えることにつなげていくという点では、理科の学習と関係が強いと考える。SDGsについては、各者特集を設けるなど工夫が見られるが、東京書籍、教育出版、啓林館は、関連する学習内容のページにSDGsの17の目標を示したアイコンが記載されていて、子どもたちもより意識できるのでよいと感じた。

## ○梶原委員

5年生の、ヒトが母体内で成長して生まれることの学習で、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版には、学習の冒頭の部分にお母さんがお腹を大きくしている写真が出ている。どれもいのちの尊さを思わせるよい写真だと思った。ここでは、母親の体内での成長の様子を学習するわけだが、母体内での成長を、直接観察することはできないので、教科書のイラストや写真といった資料を手掛かりに学習することになると思う。この点においては、啓林館がよいと思った。成長の様子イラストがとても見やすく分かりやすいし、併せて掲載される胎児の写真もよいと感じた。

## ○吉野教育長

私も啓林館がよいと考える。理科では、どのように問題解決の学習に取り組むのかが大切である。自分なりの予想や仮説をもって観察、実験などを行っていても、得られた結果が、いつも自分の予想や仮説と一致するとは限らない。そんな時、子どもたちが粘り強く、最後まで学習に取り組めるような教科書であってほしいと思っている。見通しが持てるよう、できるだけ分かりやすく学習の流れが示されている構成であること、また目的からそれないようキャラクターによるヒントが、啓林館は質、量ともに子どもたちにとって適当である印象を持っている。

大野委員がいうように、観察、実験における安全への留意は各者工夫を凝らしているが、実際の学習場面を想定すると、やはり啓林館が使いやすいと思う。

## ○菅野委員

私も啓林館は、問題解決を通して学習していく上で、問題について自分なりに予想し、他者との対話を通して解決していく協働的な学習の流れで構成されているので、よいと思う。

## ○吉野教育長

皆さんの話を聞いていると、啓林館のよさを挙げている方が多いので、啓林館としたいがどうか。

## 【結果】

全員異議なく「啓林館」が採択された。

## 【生活】

### ○吉野教育長

続いて、生活科に移る。各委員の意見を伺う。

### ○大野委員

タブレット端末が一人一台配備されていることを考えると、1年生からICT機器を活用して学習することが想定される。全ての発行者において、様々な場面でICT機器を効果的に活用している写真やイラストが掲載されている。

その中でも、教育出版や啓林館は、巻末や背表紙にタブレット端末の使い方や使用上の注意が記載されている。光村図書出版の1年生の「なかよしいっぱい がっこうたんけん」という単元では、タブレット端末で写真を撮る活動が掲載されている。その際に、写真を撮ってよいか聞いてから撮影する場面が示され、肖像権への配慮だと感じた。入学当初から、このように情報モラル教育を扱っていることはよいことだと思った。

### ○菅野委員

大野委員がおっしゃるように、ICT機器の活用については、各者で扱われている。例えば、東京書籍では、写真を撮るといった活動だけではなく、学習のまとめの場面で、大型モニターを使いながら発表する児童の様子が掲載されている。生活科の学習では、友だちと関わりながら活動したり体験したりしていく中で、自分なりの考えをまとめて、自分の考えを伝えていくと思う。その際に、ICT機器を効果的に使いながら、伝えることができるとよいのではないかなと思う。そのような時に、教科書によりモデルケースが掲載されていることは、子どもたちにとっても学びのヒントになるのではないかなと思った。

### ○大野委員

幼児期は遊びを通して学習の基盤となる資質・能力を培う。小学校においては、その資質・能力を更に伸ばしていくことが必要である。そのためには、幼児期から小学校への円滑な接続が重要なポイントになると思う。

全ての発行者において、幼児期から小学校への円滑な接続を図るためのページが設けられている。例えば光村図書出版では「いちねんせいがはじまるよ」というページ、学校図書では「はじまるよ しょうがっこう」というページが設けられている。また、文部科学省から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の姿が提示されている。この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた上で小学校の学習を行っていくと思うが、東京書籍は、その10の姿が保護者向けに文章で、子ども向けに絵と写真でとても分かりやすく掲載されていてよいと思った。

## ○梶原委員

私は、植物を育てる学習について各者を比較してみた。各者、アサガオを始めとした様々な植物が掲載されている。その中でも東京書籍と教育出版は、種から子葉、そして花へと少しずつ育っていく様子をページごとに掲載し、植物の成長を比較しやすい構成になっている。子どもたちにとっても分かりやすいし、しっかりと植物の成長を理解できるのではないかと思う。また、東京書籍の「ほんとうのおおきさ いきものずかん」が、とてもよいと思った。イラストが実物大なので、どれくらいの大きさか子どもたちが実感できると思う。

他者にも実物大のものを掲載しているページがあるが、東京書籍がいちばん充実していると思った。

## ○守屋委員

私は教科書に掲載されているイラストという観点で各者を比べてみた。優しく、柔らかい印象を受けるのは光村図書出版のように思った。絵本作家による描きおろしのイラストや言葉が多数掲載されている。このイラストと言葉は、活動において子どもたちが抱える疑問と重なったり、ヒントになったりして、学習の手助けになると思う。何より、子どもたちもこのようなイラストが好きなのではないかと思った。また、東京書籍、光村図書出版、啓林館は、町のすてきを人に伝える活動が設定されている。これが素晴らしいと思った。学習を通して、平塚市の魅力を見つけ、友だちや保護者に伝えていけるとよいと思う。

## ○吉野教育長

守屋委員がいうように、地元平塚の魅力について、子どもたちが知ることは大切なことだと思う。平塚市といえば「湘南ひらつか七夕まつり」が有名だが、東京書籍と大日本図書に写真が掲載されている。地元の写真が掲載されているのは、平塚市の子どもたちにとって身近に感じるとともに、嬉しさも感じると思う。2年生では生活科で自分たちが住んでいる地域について学習し、3年生の社会科では、身近な地域や自分たちの市の様子について学習していく。中学年への接続を考えると、2年生の生活科の教科書に地元、平塚市が扱われていることは、子どもたちにより影響を与えるのではないかと思う。

## ○守屋委員

私は東京書籍と光村図書出版、そして啓林館で迷っていたが、皆さんの意見を伺い、東京書籍がよいと思った。

## ○大野委員

私も東京書籍と光村図書出版で迷っていたが、皆さんの意見を伺い、総合的に考えると、東京書籍がよいと思う。

## ○吉野教育長

それでは、生活科については、東京書籍としてよいか。

## 【結果】

全員異議なく「東京書籍」が採択された。

## 【音楽】

### ○吉野教育長

続いて、音楽科に移る。各委員の意見を伺う。

### ○菅野委員

子どもたちが、進んで学んだり、音楽を楽しんだりすることが大切だと思う。

両者とも、見開きで「学習マップ」が掲載されていて、学習の見通しを立てながら意欲的に取り組むことができるよう工夫されていると思った。教育芸術社は、1年間でどのような活動をするのかが説明文とともに、様々なイラストで掲載され、学習のイメージが持ちやすいと思った。教育出版も学習の見通しを示しながら、各題材で学習する内容を解説しているし、イラストに加え写真が掲載されているのが特徴的だった。どちらかというとい私は、適度な情報量の教育出版がすっきりとした印象でよいと思う。

### ○守屋委員

両者とも、写真やイラストが豊富に掲載され、分かりやすさや見やすさに配慮されていると思った。

ただ、全体のバランスを見ると、教育出版の方が、例えば歌唱の「ふじ山」で山を感じる工夫として、迫力のある写真が掲載されていたり、多様な表現を引き出す文字の工夫がされていたり、特徴的なものが多い印象を受けた。また、2年生の教科書では、音の長さをかえるの跳び方と関連させて扱っているページがあり、子どもたちが視覚的に理解できるような配慮もされていた。

### ○梶原委員

私は、教育芸術社もよいと思った。教育芸術社の教科書は、子どもたちがワクワクするような工夫がされていると感じた。例えば、学習のナビゲート役としてキャラクターが設定されているので、子どもたちにとって教科書に親しみやすいと思う。また、それらのキャラクターの吹き出しが学習のヒントとして示されているので、子どもたちがこの学習では、何に気付いて、何を工夫していくのかを捉えやすく、学習への意欲も湧いてくると思う。それから、題材ごとに同じ色でまとめられていたり、二次元コードも同じ位置に掲載されていたりと、全体的に統一感があり、分かりやすく使いやすいという印象も受けた。

### ○大野委員

私は、教育出版がよいと思う。小学校では、1年生から鍵盤ハーモニカ、3年生からリコーダーを扱う。子どもたちが演奏の技能を確実に習得することは大切だし、個人差が大きく表れるところなので、そのような点から教科書を見ると、教育出版は、鍵盤ハーモニカの写真が実物大で掲載されているので、どの子にとっても使いやすい配慮がされている



と思った。また、3年生以上の教科書には、リコーダーの運指表が巻末の折込みページに掲載されていて、どのページを学習している時でも、脇に開いて指遣いを確認できるように工夫されている点がよいと思った。

ただ、教育芸術社も、リコーダーの導入ページで楽器が大きく掲載され、楽器への関心が高まるように工夫されていると感じるし、楽器を扱うときの注意点やタンギングの際のポイントなどが丁寧に扱われているので、楽器に関する知識や技能の習得という点では、教育出版より教育芸術社の方が工夫されていると思った。

### ○吉野教育長

私も教育出版がよいと思った。5年生に掲載されている見開きのこいのぼりを始め、どの歌唱共通教材も歌詞に忠実な写真でとても美しいと感じた。紙面に掲載されている歌詞とビジュアルとを関連付けることも、子どもたちが歌ってみたいという意欲や主体性につながると思う。子どもたちが自ら学習に向かえるようにデザインされていると感じる教科書は、教育出版だと思う。ここまで教育出版という意見が多いようだが、いかがか。

### ○梶原委員

全体的に統一感のある教育芸術社もよかったが、教育長がいうように、教育出版の迫力ある美しい写真は魅力的だと感じる。私も教育出版がよいと思う。

### ○吉野教育長

それでは、音楽科については、教育出版ということによいか。

### 【結果】

**全員異議なく「教育出版」が採択された。**

### 【図画工作】

### ○吉野教育長

続いて、図画工作科に移る。各委員の意見を伺う。

### ○大野委員

日本文教出版は、それぞれの題材のタイトルとともに、例えば「立体・鑑賞」、「絵・鑑賞」、「工作・鑑賞」というような活動内容が示されていて、表現と鑑賞を関連付けて学べるように工夫されている。また、表現と鑑賞を関連させる問いかけも掲載されているので、子どもたちも先生も表現と鑑賞を自然と意識できるよう配慮されているのが特徴的だった。どの題材でも表現と鑑賞を一体的に扱っているという点で、私は日本文教出版がよいと思う。

### ○菅野委員

私も日本文教出版がよいと思う。特に、「アート・カード」に魅力を感じた。カードを見

て楽しむだけでなく、活用してゲームを楽しんだり、話を作ったりすることに子どもたちは興味をもって取り組むことができ、活動が広がり学習も深まると思う。5、6年生上巻の教科書には切り取って使えるカードも収録されているので、鑑賞活動の幅が広がるのではないかと思った。

### ○守屋委員

開隆堂は、5・6年生下巻の「未来へつながる図画工作」という題材がとても素晴らしい。6年間の学習を振り返ることができるし、社会で活躍している様々な人が紹介されているので、図画工作科で学んだことが将来へつながっていることを子どもたちが実感できると思った。

ただ、大野委員や菅野委員がいうように、鑑賞活動の充実という点で、私も日本文教出版がよいと思う。

### ○梶原委員

教科書を見ると、図画工作科では様々な用具が扱われていることが分かった。けがの防止や安全面への配慮という視点で見たが、両者とも巻末に用具や材料の基本的な扱い方やポイントなどが、イラストや写真とともに丁寧に示されていた。

ただ、日本文教出版は、各項目の区切りが分かりやすいように、間に線が引かれていて、見やすくすっきりとしたレイアウトになっており、どの子にとっても使いやすいと感じたので、私も日本文教出版がよいと思う。

### ○吉野教育長

日本文教出版は、題材の見本となる写真のほかに、子どもたちが活動している姿が多く掲載されているような印象を受けた。子どもたちが、実際の授業の様子をイメージし、自分たちも活動してみたいという意欲につながるのではないかと思う。また、平塚市の美術館では対話による美術鑑賞に取り組んでいるし、アートカードの貸出しも行っている。したがって、日本文教出版に収録されているアートカードも身近に感じられると思うので、私も皆さんと同じように、日本文教出版がよいと思う。

それでは、図画工作科は日本文教出版としてよいか。

### 【結果】

**全員異議なく「日本文教出版」が採択された。**

### 【家庭】

#### ○吉野教育長

続いて、家庭科に移る。各委員の意見を伺う。

#### ○守屋委員

家庭科では「地域の人々との関わり」について学習すると思うが、様々な人が集まって

地域を作っていることから、地域というのはとても大切だと感じている。私は、開隆堂の地域を扱うページが充実していると思う。地域のルールを考える活動や地域の人との具体的な関わり方が載っているので、子どもたちが地域の一員として生活していくとはどういうことか、自分のこととして考えるには分かりやすいと思った。また、様々な家庭環境の子どもがいることを考えると、家族に限定せずに親しい人との団らんの場を考えられる開隆堂の「いっしょにほっとタイム」という題材はよいと思う。

### ○菅野委員

私も、開隆堂がよいと思った。なぜなら、家庭や地域の安全・防災のページが充実しているからである。先ほどの守屋委員の話に地域のことが出てきたが、開隆堂には、防災や災害発生時に家庭と地域でできること具体例が示されている。例えば、防災訓練に参加するという記述や、炊き出しのイラストがある。中学校でも家庭生活と地域の関わりを学習するし、社会科の自然災害や理科の雨や地震を扱うところもあるので、これらの学習は、小・中の系統的な学習や、教科横断的な学習にもつながると感じた。

### ○大野委員

開隆堂と東京書籍ともに、生活の課題発見から課題解決に向かう流れについては、学習のめあてを明確にし、学習の流れを丁寧を示している。そして、基礎的なことを理解したり、技能を身に付けたりするために必要だと思われる写真が、両者とも充実しており、例えば、包丁の使い方や裁縫について左利きの写真を載せるなど、配慮がされていてよいと思う。また、両者を比較すると、ミシンを学習するページで、開隆堂は、全ての行程に番号が振ってあるのに対し、東京書籍は番号がなく、箇条書きとなっている。指導に当たっては、動画なども活用しているとは思いますが、番号が振ってあった方が先生方も説明しやすいと思った。

ほかにも、5年生でゆでる調理を行うが、両者のじゃがいもの扱いを見ると、事故を防ぐために、じゃがいもの芽や緑色になった部分の有毒性に触れているのだが、開隆堂は更に緑色になったじゃがいもの写真についても掲載しており、よいと思った。

### ○守屋委員

調理を扱うページでは、東京書籍がIHクッキングヒーターについて安全性も含めて触れているのがよいと思った。今はIHクッキングヒーターを使っている家庭も多いので、学んだことをいかして家庭で調理をする際にも活用できると思った。

### ○吉野教育長

開隆堂はIHクッキングヒーターの扱いは少ない。調理では、加熱時間の変化は、青菜とじゃがいもは東京書籍の方が細かく記載され、ゆで卵だと開隆堂の方が細かく記載されている。ゆで卵は実際に作るとき、1～2分でゆで具合が違ってくるので、細かく記載されている方が実生活に結びついている感じがする。

## ○大野委員

開隆堂はフェルトで作るカード入れを題材に挙げているが、実物大なのがよいと思った。指導経験の浅い先生方や、5、6年生を担当してこの題材を扱った経験が少ない先生方にとっては実物大を示しながら、このまま指導できるというのは使いやすいと感じる。

## ○守屋委員

手ぬいの実習を発展的に扱った内容で、開隆堂の「生かす・深める」に「銀河鉄道の夜」をイメージしてかべかけを作った実践例が出てくる。高学年の国語科では、宮沢賢治の作品が扱われており、教科横断的な学習になっていると思った。

## ○梶原委員

家庭科は、生活全般を扱う教科なので、ほかの教科を学習したことにより、更に理解が深まるようになっていくものがよいと思う。

実習以外にも、東京書籍はコラム「プロに聞く！」で、開隆堂はコラム「キャリアインタビュー」で、働く人へのインタビュー記事が掲載されている。学習したことが、将来の仕事や生活につながっていることを理解し、学習への興味が高まるような工夫がされていると感じた。

## ○吉野教育長

東京書籍のコラム「プロに聞く！」と、開隆堂のコラム「キャリアインタビュー」を、キャリア教育の視点で見ると、開隆堂は実際に働いている人のメッセージから職業観を知り、社会に目を向けられるように工夫されており、より充実している印象を受けた。

それでは、家庭科は、開隆堂としてよいか。

## 【結果】

**全員異議なく「開隆堂」が採択された。**

## 【保健】

### ○吉野教育長

続いて、保健に移る。各委員の意見を伺う。

### ○梶原委員

各者、写真やイラストを多く使用して、子どもたちが身近な生活を想像しながら学習できるように構成されていると思う。その中でも、子どもたちの経験が少ないけがの手当てや、自分事として捉えにくい生活習慣病に関して、イラストや具体的な様子が記載され、理解につながる工夫がされている Gakken がよいと感じた。特に生活習慣病については、子どもの頃から教育していくことで、将来の健康を考えることにつながると思う。また、大人になっても健康であるために、どんなことに気を付ければよいか考える力を育てることも重要だと考えているので、始めに自分を振り返り、気付いたことを書き込むことができ

る Gakken がよいと思う。

### ○守屋委員

私は、何よりも子どもたちには健康に過ごしてほしいと願っている。保健では、感染症の予防も扱うが、新型コロナウイルス感染症については、各者様々な扱い方をしている。多くの発行者がコラムで取り扱う中、東京書籍と大修館書店はほかの感染症とともに本文の中で扱われており、ポストコロナ時代に健康の大切さをより一層強く意識していると思った。

Gakken には、薬物乱用の防止について、薬物を勧められた時の対応を考える活動が設けられている。発展的な内容だが、学習したことを実生活に役立てるという意味では、有効な活動だと思う。

光文書院では、各章の始まりに4コマ漫画を用いており、子どもたちが学習する内容をイメージしやすい工夫がされていると感じた。

### ○菅野委員

私は、熱中症の表記に着目している。熱中症は近年の猛暑により体育の授業だけでなく、日常生活の中でも起こり得ると思う。そのため、熱中症対策について詳しく記載されている教科書がよいのではないかと考えている。各者、熱中症について発展的に記載されているが、文教社は熱中症になった時の対策がフローチャート式になっており、分かりやすくまとめられている印象を受けた。また、現代の子どもを取り巻く環境から、スマートフォンやタブレット端末などの使用による健康課題についても、各者取り扱っているようだが、東京書籍、大修館書店、Gakken ではイラストを使って、目が乾かないためのまばたきなど身近な対処方法も示し、理解しやすいように工夫されていた。さらに、Gakken は单元ごとと学年のまとまりごとに、学習した内容に関連した資料を提示し、児童が健康への関心をより高められるように構成されている点がよいと感じた。

### ○大野委員

私は、課題に気付いたり、自分で考えたり、自分のことを見つめたりすることが保健の授業において大切ではないかと考えている。その点において、東京書籍は子どもたちが課題把握しやすいよう「気づく・見つける」に1から2ページを使用し、具体的な写真やイラストで課題をイメージしやすいように工夫されていた。大日本図書も、表紙の次にある折りこみカードにより学習内容を見えないようにし、自身の健康課題を把握する工夫がされている。

Gakken は教科書に考えをまとめる部分が、特に多く設定されている。様々な健康課題を自分事として捉えられるような問いかけがあり、子どもたちが思いや考えを書きやすい工夫がされている。私は、Gakken がよいと感じた。

### ○吉野教育長

保健については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、健康な生活を送る資質や能力の基礎が培われるよう学習を展開する必要がある。

大修館書店は、学習内容から新たな気づきにつながるよう、関連する單元ごとに資料が示されているところがよいと感じた。先ほども話題に上がっていたが、スマートフォンやタブレット端末などの使用による健康課題についても、子どもたちが身近な生活を想像しやすいように記載されている。

Gakken は自分で考えながら教科書に直接書き込める、つまり思考力を育むことをねらいとした工夫が、様々な箇所に散りばめられているだけでなく、話し合うなどの対話的な学びにつながる学習活動も多く取り入れられている。自分の考えをまとめ、友だちと話し合うことで理解を深め、身近な生活と健康について考える好循環を生み出すことができると考える。

両者を比較すると Gakken の方がよいと考える。

様々な発行者の特徴をお話いただいたが、保健については Gakken を推す意見が多いようなので、Gakken としてよいか。

## 【結果】

**全員異議なく「Gakken」が採択された。**

## 【英語】

### ○吉野教育長

続いて、英語科に移る。各委員の意見を伺う。

### ○守屋委員

5、6年生で「書くこと」の指導が入ってくることを踏まえれば、教科書に直接書き込む際に配慮があるものがよいと思う。開隆堂は文を書く際にヒントとなるお手本が書き込み欄のすぐ上に分かりやすく示されている。それぞれの文を耳で聞きながら指で追い、それから書くという指示も段階を踏んでいてよいと思う。また、別冊でワードブックが各学年1冊ずつ用意されている。東京書籍と三省堂にもワードブックはついているが、2年間で1冊なので、5年生で使用したものを引き続き6年生でも使うことになる。子どもたちの実態を考えると、1年ごとに新しいワードブックがあった方がよいのではないかと思う。光村図書出版は、ワードブックを各学年1冊ずつ用意しているが、掲載されている単語が5年生と6年生で全く異なる。開隆堂の6年生のワードブックには、6年生で学習する単語や語句に加え、5年生で学習したものが掲載されている。子どもたちにとっては、6年生のワードブックが1冊あれば、5年生で学習した単語や語句も確認しながら学習を進めていくことができるので、使いやすいと思う。

### ○梶原委員

採択検討委員会では、現在3、4年生の外国語活動で使用されている文部科学省発行の「Let's Try」に紙面の構成が一番似ているのは教育出版ではないかという意見が出た。3、4年生で学習してきたこととの接続という視点でいえば、教育出版が一番馴染みがあるという見方もできる。

## ○菅野委員

言語の自然な習得順序は、まず「聞くこと」から始まる。そして、十分聞いたところで徐々に「話す」ことができるようになる。「書くこと」は後からでもよいので、まず音声中心に学習を進めていくことが大切だと思う。

今回の教科書は音声聞くための二次元コードが各者とても充実している。その中でも使いやすいと感じたのは東京書籍、開隆堂、啓林館、三省堂の4者である。1つの二次元コードを読み込めばその教科書の目次にまでアクセスすることができるので、授業中に何度もカメラを起動して読み込む必要がなかった。

音声面とワードブックの使いやすさという面から、私も開隆堂が一番よいと思う。

## ○吉野教育長

二次元コードから音声にアクセスすることは必要であり、その使いやすさは大切だと思う。3、4年生からの学習の接続を考えれば、現在3、4年生の外国語活動で使われている「Let's Try」に全体的な紙面構成が似ているのは教育出版ではないかと考えるが、「書くこと」の指導において、現在の5、6年生が使っている教科書に近いのは開隆堂ではないかと思う。

## ○大野委員

平塚市は英語で表面的なやり取りをするのではなく、「思いを伝えたい」、「気持ちを分かち合いたい」という意思がまず先にあり、それを英語で表現することを大切にしてきた。練習のために英語を使うのではなく、やはりそこに心の動きがあることが大事である。「担任の先生は何ができるのか」とか、「友だちは何が好きなのか」とか、「私はこれが好きだ」、などという思いが基本となり、その思いを言葉を使って表現することが大事なのだということ、平塚市では外国語活動が始まった当初から大切にしてきたと思う。

その点において、私は開隆堂が一番よいと思った。

## ○吉野教育長

開隆堂は、「書くこと」の指導に関しても、音声で慣れ親しんだものからの橋渡しが一番丁寧だと感じた。守屋委員の話にもあったが、文を書く際にお手本があり、指で文を追いながら聞いたあと、お手本を見ながら書くという流れがよいと思った。また、アルファベットの学習に関しても、絵の中に隠れているアルファベットを探すゲームや小文字を辿ってゴールを目指す迷路など、子どもたちが楽しみながらアルファベットに慣れ親しんでいけるような工夫があり、魅力を感じた。

それでは、英語科については開隆堂としてよいか。

## 【結果】

**全員異議なく「開隆堂」が採択された。**

## 【道徳】

### ○吉野教育長

続いて、道徳科に移る。各委員の意見を伺う。

### ○大野委員

「考え、議論する道徳」であることが大切だと言われているが、各者学び方を提示し、話し合い活動の進め方や実践例などが工夫されていると感じる。光村図書出版では、みんな気持ちよく話し合うためのコツが、発達段階に応じて掲載されており、相手の考えを丁寧に受け止めるという姿勢や、自分や他者を価値ある存在として尊重していくという姿勢がよいと思った。

### ○守屋委員

各者、教材末にあらゆる視点で考えることができる発問が掲載されており、話し合いが深まる工夫がされている。これらの工夫によって、子どもたちは様々な角度で考えることができ、道徳の授業場面だけでなく、日常生活にもつながるようになってきていると思う。

中でも、光文書院は、どこよりも発問数が多く特徴的である。

日本文教出版では、学びを広げ、深めるコラム「心のベンチ」が設定されている。その中に、自己肯定感を高めるようなコラムも掲載されており、人に認めてもらうことで、まわりの人を認め、理解することへつなげていると感じた。

光村図書出版は、教材末の発問に加え、「考えるヒント」で、様々な学習活動が提案されており、みんなで考え、話し合うことが大事にされていると思った。各者、特徴があるが、私は光村図書出版がよいと思う。

### ○菅野委員

考えを整理したり深めたりするために、光文書院、東京書籍、光村図書出版では、思考ツールを活用しているのが興味深い。思考を見える化することは、子どもたちにとっても考えるヒントになると感じた。

### ○梶原委員

ほかの人の立場に立って、その人の考えや気持ちなどを想像したり、共感したりする力を育てたり、自分の考えや気持ちを丁寧に表現し、伝え合うためのコミュニケーション能力を育てたりすることは、子どもたちの人権意識を育むことにもつながると思う。

そういう人権教育の視点から、「世界人権宣言」が掲載されている東京書籍、教育出版、光村図書出版はよいと思った。

特に光村図書出版では、30条全てが掲載されており、「自分たちのクラスで特に大事にしたい条文はどれか。」や「いいなと思う『世界人権宣言』の条文について、意見を交流しましょう。」などの発問があり、工夫がされていると感じた。

### ○大野委員

現代的な課題として、各者情報モラルについて取り上げているが、光村図書出版では、



発達段階に応じ、子どもたちの日常で課題となりそうな事例が読み物教材だけでなく、漫画でも扱われており、情報との向き合い方について学びやすい工夫がされていてよいと思った。

### ○吉野教育長

平塚市では、命の大切さ、子どもたちの安心安全を第一に考えるとともに、「共生社会の実現に向けたインクルーシブな学校づくり」についても重きを置いている。

Gakken では、最重点テーマを「いのちの教育」としている。生命の尊さや人権を重んじ、多様性を受入れながら、他者と共によりよく生きることについて考える教材が、全学年で設定されていて、いじめ防止につなげている。

光村図書出版では、「命の尊さ」について、各学年年間3つの教材が配置されており、「感じよう いのち」という活動を通して、実感を伴って生命の尊さについて考えを深めることができるようになってきている。また、3年生以上の学年で、「共生」を重点的にテーマとして取り上げている。

### ○守屋委員

「命の尊さ」については、各者取り上げているが、光村図書出版には、身近な人を看取る内容の教材が6年生にある。臨場感のある写真と共に、子どもたちと命の尊さを考える機会になると感じた。

### ○菅野委員

平塚市が、命の大切さ、子どもたちの安心安全を第一に考えているということを考えると、「命の尊さ」や「共生」に重きを置いている光村図書出版がよいのではないかと考える。

### ○吉野教育長

ここまでの意見を総合すると、光村図書出版を推す意見が多い。道徳科については、光村図書出版としてよいか。

### 【結果】

**全員異議なく「光村図書出版」が採択された。**

## 2 議案第11号 令和6年度平塚市立中学校使用教科用図書の採択について

### 【提案説明】

### ○吉野教育長

令和6年度に平塚市立中学校の生徒が使用する教科用図書について採択するものである。詳細は、教育指導課長から説明する。

### ○教育指導課長

令和6年度平塚市立中学校使用教科用図書の採択についてだが、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条において、「政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科書を採択するものとする」とある。平塚市立中学校使用教科用図書は、令和2年度に採択され、令和3年度から6年度の4年間、種目ごとに同一の教科書を採択することになっている。よって、資料を確認の上、採択をお願いしたい。

#### 【質疑】

なし

#### 【結果】

全員異議なく原案どおり可決された。

## 3 議案第12号 令和6年度平塚市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について

#### 【提案説明】

### ○吉野教育長

令和6年度に平塚市立小・中学校特別支援学級の生徒が使用する教科用図書について採択するものである。

詳細は、教育指導課長から説明する。

### ○教育指導課長

令和6年度平塚市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書については、学校教育法附則第9条により、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学大臣が著作の名義を有する教科用図書以外の図書を使用することができる。

資料にある「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和6年度使用）」、「令和6年度用一般図書一覧」、「本市で採択された教科書及び下学年の使用教科書、拡大教科書（弱視者用含む）」からの選定となるので、確認いただき、採択をお願いしたい。

#### 【質疑】

なし

#### 【結果】

全員異議なく原案どおり可決された。

**【休憩】**

**○吉野教育長**

それでは、ここで16時15分まで暫時休憩とする。

**(16時15分再開)**

**【再開宣言】**

**○吉野教育長**

それでは、休憩前に引き続き審議を再開する。

**4 議案第13号 平塚市図書館協議会委員の任命について**

**【提案説明】**

**○吉野教育長**

平塚市図書館協議会委員を新たに任命するものである。

詳細は、中央図書館長から説明する。

**○中央図書館長**

平塚市図書館協議会は、図書館法第14条に規定される、図書館の運営に関して館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕について、館長に対して意見を述べる機関として、平塚市の図書館の設置及び管理等に関する条例第15条に基づき設置している。

委員については、学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者とし、定数は6人、任期は2年となっている。

現在の委員の任期が、本年7月31日で満了となるため、令和5年8月1日から令和7年7月31日までの2年間、新委員の任命について承認を求めるものである。

**【質疑】**

なし

**【結果】**

全員異議なく原案どおり可決された。

**5 議案第14号 平塚市美術館協議会委員の任命について**

**【提案説明】**

**○吉野教育長**

平塚市美術館協議会委員を新たに任命するものである。

詳細は、美術館長から説明する。

## ○美術館長

平塚市美術館協議会は、博物館法第23条第2項の規定により、美術館の運営に関して館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、美術館活動の充実と発展を図ることを目的に設置している。

委員については、「平塚市美術館の設置及び管理等に関する条例」で学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者のある者から任命することとし、任期は2年、同条例施行規則で定数を8人と定めている。

現在の委員の任期が、本年7月31日で満了となるため、令和5年8月1日から令和7年7月31日までの2年間、新委員の任命について承認を求めるものである。

### 【質疑】

なし

### 【結果】

全員異議なく原案どおり可決された。

### 【閉会宣言】

## ○吉野教育長

以上で全ての案件の審議が終了したので、教育委員会7月定例会は閉会する。

(16時22分閉会)